



# 担い手通信



JA bank Mitc

Topic

今月の話題

## ご飯もう一口、国産豆腐は月に2丁… プラス 11ポトイ作戦始動 食料自給率38%にダウン日々の食卓ちよつと工夫を

① 飯を1日もう一口、国産豆腐を月に2丁——。食料自給率を1ポイント上げるために必要な国民の食事量の一例です。2016年度の食料自給率(カロリーベース)は38%と、先進国の中で最低水準にまで落ち込みました。自給率向上へ、誰でも簡単にできる「1ポイント上げる」ためのちよつとした工夫を紹介します。

農水省が提示する食料自給率を1ポイント向上させる方策によると、全国民が、ご飯を1日にもう一口(17g)食べるだけで1ポイント自給率が向上します。「国産米粉パンを月に6枚(400g)食べ

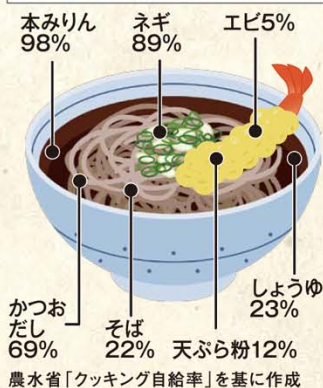
る」「国産大豆100%の豆腐を月に2丁食べる」「国産小麦100%のうどんを月に2玉食べる」などでも向上します。これら全てを実現できれば、4ポイント向上する計算です。日常の食事を増やすの

② ではなく、国産の農産物を選ぶことで自給率が上がります。

原料の輸入割合が高いそばやうどんでは自給率は下がり、「エビの天ぷらそば」は24%まで低下します。本みりん(98%)、かつおだし(69%)などだしの自給率が高いのですが、しょうゆ(23%)、エビ(5%)などの低さが自給率を下げる要因です。しかし、そば粉を100%国産にすれば、天ぷらそばの自給率は71%まで上昇します。最近ではラーメン用やちゃんぽん用、パスタ用など小麦の品種開発が進んでおり、こうした品種が広がれば自給率向上に貢献しそうです。

農水省は自給率への意識を高めてもらおうと、インターネット上で、料理の自給

一般的な天ぷらそばの自給率



### 数字でみえる 三重県の農と食

5万9900 畧

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

### 三重県の耕地面積

東海農政局の「東海3県の耕地面積(平成28年)」によると、三重県の耕地面積は平成28年時点で5万9900畧。内訳は田が75%、畑(普通畑、樹園地、牧草地)が25%です。田の割合が北海道を除く都府県の平均の66%と比べても高く、稲が重要な農産物になっています。北海道を除く都府県の耕地面積順位は22位です。

率を計算するソフトを公開。ハンバーグ(14%)、ねぎとろ井(82%)といったメニューや、家庭で作る料理の食材を選んで入力すれば、食料自給率を算出できます。16年度は国民1人が1日当たり242.9gを摂取しており、このうち国産食材からの摂取は91.3gにとどまっています。

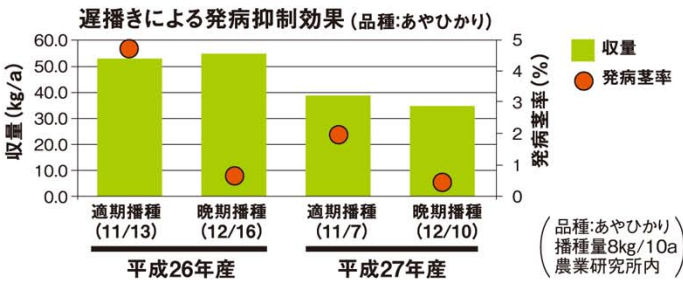
このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

### コムギ黒節病の総合的防除技術

三重県農業研究所は、金属銀水和剤による種子消毒と1カ月程度の播種を遅らせる耕種防除、低コストの保菌状況調査を組み合わせたコムギ黒節病の総合的防除の有効性を確認しました。

発病抑制には金属銀水和剤での種子消毒が有効です。種子重量0.5%と1.0%の湿粉衣処理、20倍液10分間浸透処理の全てで発病抑制に効果があり、薬害も見られませんでした。また、遅播きで適期播種と同水準の収量を保ちながら、発病を抑制できた。播きは地域性や気象変動などで、収量が不安定になる可能性があります。

安定になる可能性があります。保菌粒率調査には、96穴のマルチウエルプレートで作成した種子の浸水液を菌選択培地に移植することで、従来より簡単な方法より簡単に保菌の判断が出来ます。試薬量も低減するため低コストで、同研究所では種子健全度のモニタリングへの活用が期待できるとしています。これらの試験研究は農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(25063)により取り組みました。



お問い合わせ先 三重県農業研究所 農産研究課 ☎0598-42-6359

### JA松阪

#### 高齢者に「乳和食」配食サービスへ試食

JA松阪助け合い組織ほほえみは、独居高齢者への配食サービスを検討している。9月上旬には、松阪市のJAふれあいの里つじわらで「ふれあいサロン」の参加者を対象に、弁当を作り、配布した。同組織は2016年度から、だしや塩分の代わりに乳製品を使い、料理にこくを出すことで減塩する「乳和食」の普及に取り組む。今回の配布は、健康に良い乳和食の拡大と独居高齢者の食生活面のサポートを目的に行った。(2017/9/17 エリア東海)

### JA多気郡

#### 小学生と芳香剤制作 放課後児童クラブで

JA多気郡は8月下旬、明和町の放課後児童クラブで「家に残っている保冷剤を使って芳香剤を作ろう」と題し、夏休みふれあい子ども体験教室を開いた。JA職員らがテーマを考える、体験型のイベント。地域貢献活動「ふれあい活動」として毎年開き、6回目。同クラブに通う小学生63人が参加。JA職員を講師に、家に残りがちな保冷剤を活用してオリジナルの芳香剤を作った。参加した子どもは、「いい匂いがして楽しかった。家族に見せたい」と話した。(2017/9/10 エリア東海)

### JA伊勢

#### 農業体験学習 年間参加人数1000人突破

JA伊勢は、水田の農業体験学習の年間参加人数1000人を目標に取り組んできた。今回、伊勢市と学校給食に使う「コシヒカリ」の稲刈り体験を行ったところ、1111人となり、目標を達成した。JAは地域活動組織や学校と連携した食育、農業体験学習に取り組んでいる。今回は市と協力した。普段食べている米の収穫を体験することで食と農業の大切さ、収穫の喜びを伝えるのが狙い。当日は、市内6小学校の5年生317人が参加。稲は5月に児童が植えたもので、鎌を使い、黄金色の稲穂を一生懸命刈っていた。(2017/9/13 ワイド1東海)

### 金利情報 平成29年9月21日現在

#### 農業近代化資金

実質金利  
年0%~0.30%  
(固定金利)

※認定農業者の方は、市町や(公財)農林水産長期金融協会の利子補給等により、お借入ができます。

#### スーパーS資金

年1.5%  
(変動金利)

短期の運転資金が必要になった方に

今ならJAバンク利子補給制度により  
最大年1%の利子補給が受けられます。

## スーパーS資金

農業経営改善促進資金

認定農業者向けの  
低利・便利な短期運転資金です

- 家畜等の購入資金
- 種苗代・肥料代・雇用労賃などに
- 農舎・畜舎の補修農業機械の修繕費



詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。  
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>

平成29年9月現在

